

京丹波町の地域医療を考えるつどいニュース

京丹波町の地域医療を考えるつどい実行委員会 2021. 10. 13

《連絡先：京都社保協 Tel 075-801-2526》



10/9 「町の財政と地域医療を考えるつどい」 会場いっぱい50人が参加 熱心に聞き入る



「町財政はどうなっているの、病院の維持に求められること」

騙されないために

10月9日、京丹波マーケス・コミュニティホールで開催された「町の財政と地域医療を考えるつどい」には、50人の住民らが参加。平岡和久さん（立命大教授・財政学）、村田隆史さん（府立大准教授・社会保障）の講演に熱心に聞き入り、京丹波町病院を守る財政的な根拠や、社会保障の立場からの意義を深めました。尚、会場募金の訴えに、2万3130円の協力がありました。ありがとうございました。



京丹波町病院は、町財政からも持続可能
世界的にも少ない医師・看護師の大幅増員を（村田先生）
（平岡先生）



平岡先生

について講

「自治体財政は、小難しい用語が多く、ついつい、政府や自治体当局に騙されることがある」として、「合併しないと財政が破綻する」とすめられた平成の大合併や「コロナで自治体財政は危機」を理由にした住民サービス削減攻撃、病院の統廃合や水道事業の広域連携なども、ウソが多く、「騙されないようにすることが重要」と財政分析の重要性を強調し、京丹波町財政の財政について、具体的資料を示しながら講演を行いました。

《平岡先生は、町財政の4点の特徴を強調しました》

【京丹波町の財政の特徴】

- ① 京丹波町財政は、過去の多大な投資にともなう公債費負担により圧迫を受けており、さらに新庁舎建設による起債増大がさらに財政を圧迫し、経費削減のために住民サービスが低下する恐れがある。
- ② ただし、町は予算を厳しめに見積もっており、予算へ入での財政見通しは実態を反映していない。
- ③ 町の財政収支は健全性を維持しており、財政の持続性に対して過度に危機をおおる必要はない。
- ④ 京丹波町病院事業については、不良債務はなく、持続可能である。ただし、医師・看護師を確保し、病床利用率を上げていくことが、病院の地域における役割を果たしながら、経営を健全化するために求められている。

分断攻撃許さない 世代間の連帯を



村田先生
医療費削減政策から地域医療を守る

「国のために何が必要か」について講演された村田先生は、政府のこの間の攻撃の手法として、若者と高齢者を対立させる世代間分断攻撃があり、それを許さ

ない世代間連帯の重要性を指摘。また、そもそも医師や看護師は先進国と比較して、数が異常に低く、「コロナ禍に関係なくギリギリの状態」で病院が運営されており、日本の医療は数どころか、直ちに予算を増やし、医師、看護師を増員することが求められていると強調されました。

